

未来へ羽ばたく若い力

日本中の子どもたちが競い合うジュニアオリンピック。今年、見事優勝を果たした中学生2人に10月26日、市長特別賞が贈られました。今後も活躍が期待される2人に、これからの目標を聞きました。



第41回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会
女子(13~14歳)200m・100m背泳ぎ

全国1位



2歳から水泳を始め、ほとんど休むことなく毎日2時間ほどの練習をこなす赤羽さん。小学4年生から毎年全国大会に出場し、今回初めて全国大会での優勝を果たした。決勝で涙をのんだ昨年からは1年かけて、苦手とするターンを克服。悲願の全国1位を勝ち取った。全国大会で戦うためのハイレベルなトレーニングメニューをこなす彼女。ますますの活躍が期待される。

たくさんのライバルがいるので、今の実力に満足せずに春の全国大会までにタイムを上げていきたいです。



三島中学校2年 **赤羽 沙也加** さん
Sayaka Akabane

第49回ジュニアオリンピック陸上競技大会
4×100mリレー 栃木県代表 **全国1位**



100m個人でも全国4位に輝いた。

小学5年生から本格的に陸上を始めた土谷さん。現在は陸上部で走り込みや筋力トレーニングなど練習に励む。これまでも足の怪我に見舞われ、陸上をやめようと思ったこともあるというが、「また走りたい」という強い思いで逆境を乗り越えてきた。昨年は1/100秒差で勝ち上がれなかったという全国大会の決勝。今年は栃木県代表としてリベンジを果たし見事に優勝を飾った。今後も大好きな陸上を続け、さらなる高みを目指していく。

中学生最後の大会で優勝できてよかったです。高校生になったらインターハイを目指して頑張っていきたいです。



三島中学校3年 **土谷 歩夢** さん
Arumu Tsuchiya

子どもたちに
馬と触れ合う**喜び**を伝えたい。



2020年 東京 に懸ける思い

このまちにも東京オリンピックを目指すアスリートがいる。オリンピック出場経験もあり、再びの挑戦となる馬術の廣田選手と、今年のジュニアオリンピックで輝かしい成績をおさめ、今後の活躍が期待される若者たちに話を聞いた。

馬との触れ合いを広めたい

24歳でシドニーオリンピック出場を果たした廣田選手。「出場できるだけで嬉しかった」と当時を振り返った。それから18年間。「馬と触れ合う喜びを子どもたちに伝えたい」。競技を続ける中で、その気持ちは次第に強くなっていったという。

スポーツの祭典・オリンピック。そこでメダルを獲得すれば、馬術への関心を高められるだろう。「だから何としてもメダルを取りたいんです」。そう決意に満ちた表情で話してくれた。「人間は相手を見た目や肩書きなどで判断しがち。でも、馬は誰に対しても表裏がなく相手の心しか見ていない。幼い頃から馬と触れ合えば、子どもたちの心が豊かになる」と語り、不登校だった子が学校に行けるようになったことを教えてくれた。

馬は人生そのもの

「どうして君の馬はそんなに君の



廣田 龍馬 選手(42歳)

11歳から本格的に馬術を始め、19歳で全日本チャンピオンに輝く。24歳のときにはシドニーオリンピックに出場。日本国内にとどまらず海外の大会でも優勝経験を持つ日本を代表する障害飛越の名手。

ために尽くしてくれるの？」と他の選手から問われることもあるという廣田選手。毎日マッサージをしたり、身の回りの世話をしたり、365日休みなく馬にすべてを捧げているからこそ信頼関係が生まれる。廣田選手は「馬は人生そのもの。自分は馬に生かされている」と話してくれた。

最良のパートナーと共に挑む

シドニー以降は、馬の調整が間に合わずオリンピックへの出場を果たせなかった。そのため、東京への思いは誰よりも強く、3年前に出会った「ニック オブタイム」という馬と調整を進めている。「この馬は抜群の身体能力とどんな障害にも立ち向かう気高い心を持ち合わせている。人生で一番良い馬に巡り合えた」と語る廣田選手。

最良のパートナーとともに、東京オリンピックにすべてを懸け、これからも挑戦を続けていく。